

# 研究だより

R4. 8. 22 (月)

担当：大井 真実

佐藤 亜紀

## ～ 中学部授業研究会のまとめ～

### 1 研究授業について

○単元名：中学部 生活単元学習

「クラブ活動をしよう『探索クラブで Go! 力を合わせて探しに行こう』」

○期間：令和4年6月27日（月）～7月6日（水）

〈研究授業：6月30日（木）〉

○時間：11：15～12：05

○場所：中学部2年1組教室、晴天時校舎周り、雨天時校舎内

○生徒：〈探索クラブ〉2年1組2名、2年2組1名

～活動を通して、こんな力を身に付けていく授業。将来のこんな姿につなげていきたい～

#### ＜クラブ活動全体について＞

- ・生活単元学習として行い、季節や行事、生活や興味に即した題材を柔軟に取り上げる。
- ・年2回（2～3週間）、前期（6～7月）は、友達との仲を深める活動や気候の良い時期だからこそできる活動を。後期（12月）は、室内での過ごし方の充実や前期とは違う活動で経験の拡大を図る活動を仕組む。
- ・前期はスポーツ（体育系）、ミュージック（音楽系）、アート（美術系）、サイエンス（理科系）、探索（理科系・社会系）の5つのクラブを開設する。（前期は家庭系はなし。）
- ・生徒の興味の幅を広げたり深めたりして、人や物事とのかかわりを豊かにし、将来的な余暇につながるような経験の場となることを期待している。
- ・訪問教育の生徒1名が自立活動の授業として探索クラブに所属する。同じ材料で制作したり、活動をDVDで視聴したりしながら経験を広げ、探索クラブの全員と一緒に学んでいることを感じて活動してほしい。

#### ＜探索クラブについて＞

- ・ボス（訪問教育生徒）からのミッションカードのイラストと一致するものを探す活動を通し、自分の意見をもって話をしたり、他者の意見を聞き入れたりして、主体的また協力的に課題を遂行するという社会参加に必要な力を身に付けることをねらいとする。  
（ミッション例：「七夕につかう竹」「半分青いトマト」など）
- ・探索クラブを通して、学級や学部、作業班などより大きな集団の中でも自分の役割を果たそうとしたり、話し合いに積極的に参加したりする姿勢が育つことを期待している。

## 2 対象児童生徒の本時の（研究授業で）の目標

Aさん	<ul style="list-style-type: none"><li>・探索場所について友達の意見を聞き、どこの近くにあるか、学校マップや地図記号表を見ながら場所を指差す。</li><li>・積極的に友達に話しかけ、見つけたものを見せ合ったりミッションカードと照らし合わせようと提案したりする。</li></ul>
Bさん	<ul style="list-style-type: none"><li>・「〇〇にあるよ。」など、自分の記憶を頼りに探索場所の意見を出す。</li><li>・「あった。」と言って見つけたものを友達に差し出したり、友達のものを見比べたりする。</li></ul>
Cさん	<ul style="list-style-type: none"><li>・探索場所について、友達の意見を聞き、うなずいたり自分の意見を言ったりする。</li><li>・「あった。」と言って見つけたものを友達に差し出したり、友達のものを見比べたりする。</li></ul>

## 3 「深い学び」につながる「(主体的・対話的な学びが)できる状況づくり」を学び合えたか？(どのように工夫や改善ができたか)(○成果、●課題)

### <「(主体的・対話的な学びが)できる状況づくり」の工夫が生きたこと>

(※自評及びグループ協議より)

- 意図していなかったが、結果的に仲の良い3人なので「対話的な学び」を展開しやすい雰囲気・状況を作ることができた。関係性が良く、3人でやり取りできていた。友達の意見を受け容れるなど成長があった。
- 敢えて多数決にせず、生徒同士が話し合う場面を大事にしたことで、頭を突き合わせて目的の場所へ行く方法について話し合う姿が見られた。
- ミッションの難しさが丁度良く、地図やICTの活用、BGMの効果などもあり、ワクワク感があった。滞りがちなBさんがアイデアを出すなどやる気に満ちていた。

### <課題となったこと・改善できたこと>

- 3人が意欲をもって主体的に活動できるように、教師側からのミッションだけでなく自分でミッションを考える(好きな物を見つける)日があってもよい。  
⇒ミッションの一つ目を「近くにブランコがある山」(簡単なもの)、二つ目を「好きなもの」としたことで、Cさんは石を見つけて「火打ち石」に見立て、発想力を生かしていた。また、3人の掛け合いで終わりの合図(「チャンチャン」と手を広げる。)をするなど、より探索クラブの世界観に入りこんで活動していた。
- 教師が介入することもあったので、徐々に生徒間のやり取りにし、失敗も経験するようにして、自分で考える機会も作っていけるとよいのではないかと。一方で、会話に入れない生徒がいるときには介入があっても良いのではないかと。  
⇒見守りを大事にしたことで、ミッションカード(和太鼓のイラスト)を見た生徒が音楽室へ向かいスネアドラムを見つけた。色や形が違うことに気付き、自分で考え直して改めて大会議室へ向い和太鼓を見つけた。  
⇒会話に入ることが難しい生徒に、教師ではなく他生徒から働きかけるよう「〇〇くんにも聞いてみて。」と言葉かけしたことで、生徒同士でやり取りし、その結果、仲間意識をもってみんなが活動に前向きに参加するようになった。後半には、自分から友達を呼び、見つけたものを教えるようになった。
- ミッションをクリアし、見つけた喜びを共有するだけでなく、見つけた物を他の単元でも使うとか、みんなの活動で使う、または伝えたい思いを大切に調べて活動につなげるなど、どうするか考えて発展させたい。  
⇒訪問教室前の七夕飾りを見て、生徒たちが「みんなで取ってきた竹かな？」とつぶやいていた。「ボスのミッションで、みんなで竹を探しに行った。」というストーリーを共有できていると感じられた。  
⇒ミッションはその日のものとして終わっていた。今後は、学習の成果を次(他)の

学習へ生かし発展させていくことも意識して授業づくりを行っていく。生徒の気付きや発見を大事にして次へ次へとつなげることで、より「深い学び」ある学習にしていきたい。

#### 4 この単元で、授業や児童生徒の様子が、どのように変わったか。

生徒	Before	After
Aさん	●自分が思ったことを教師に伝えることが多かった。	○リーダーの役割になることで、自分から友達に伝えることが増えた。 ○友達の意見を聞いて受け入れることができた。
Bさん	●気持ちが乗らなければ滞り、活動に参加しようとしなかった。	○アイテム（タオルネクタイ）を身に付けることで意欲的になり、見つけたものを、「あったよ。」と伝えたり、見比べて「（ミッションのものとは）ちがうよ。」と伝えたりした。自分なりの根拠をもって、「暑いからこっち（の道がいい。）」と友達に意見を伝えることもあった。
Cさん	●下を向いて会話に入らなかったりミッションと違うこと（ipadなどで遊ぶ）をしたりしていた。	○友達から声をかけられると、話し合いに近付いていき意見を言うようになった。 ○「半分青いトマト」を見付け、指差して友達に教えた。

#### 5 ご助言（山形県教育庁 特別支援教育課 主任指導主事 青柳リエ子 先生） ＜グループ協議から＞

- 言葉の意味について、外国籍だということは関係なく、成長過程、家庭環境などで言葉の意味の捉えが違ってもいい。箆も、大きいものもあれば、卓上の小さいものもある。それぞれ、イメージが違ってもいい。確認が大事である。
- 役割を意識することで自分で考え、工夫すること（主体性）につながる。Aさん（リーダー）の成長の経過を見ているからこそ、やり取りできていること、友達と折り合いをつけていること、それが彼の成長とつかめる。これまでの姿を捉え、今の姿をどう見るかが大事である。
- 場づくりは大事である。「ゴー」という、何気ないかけ声の工夫がやる気や集中力を引き出す。教師と生徒のやり取りは限られた時間で意見を共有すること。ミッションをクリアすることは同じでも、あるときは話し合いを中心に行うなど工夫するとよい。
- 必然性あるミッションがよかったと話されていた。訪問教育生徒にとっての必然性とは何か。お互いに、なぜこの活動をするのか。生徒がその意義を捉えられることが大事である。
- ICTの活用について。マップがあるだけで「この学習か。」と分かる。ただ使うのではなく集中力につながる。題材に入り込めることは意欲につながる。「見つけてきたよ。」と話し合いにもつながる。“ミッションを受けて見つける”ことを積み上げてきたことで、「今度は何を見つけたい？」「どうやって探す？」などと考えると発展して面白い授業になる。
- 教師の入り具合が難しいということについて。入りすぎると広がらない。うまく話し合いに入れない生徒には必要。普段の様子を見て入ろうか、待とうかと考える。

- 題材のよさ、ストーリー性は大事である。展開が物語としてイメージできる。生徒は納得すると自分から動く。次の単元、ミッションでも別の場面でも、生徒の生活のなかでストーリーがつながっていくと面白い。
- 学校マップ（ホワイトボード）上の磁石（顔付き）を動かして積極的に話し合いを進めていた。なぜ歩いて行って掲揚台に上るのかと思ったが、話し合いで自分の考えを出して「ここでジャンプして…」となった。考えたことを実際にやってみるのは大事である。塗り絵が得意という実態も出されていた。教師同士、話し合うからこそ生まれる。情報を出し合って授業づくりをすることが大事である。

#### < 研究授業参観から >

生徒たちは見通しをもっていた。繰り返しの効果である。視覚的な手がかりもあり、一人一人の特性や、知的障害の学習上の特性を考えてつくられていた。魅力的な授業がつけられるのは実態を捉えられているからである。個別の指導計画を踏まえて、実態を押さえつつ、もっと伸ばしたい面、力を付けたい面を踏まえて授業をつくっている。

対話とは友達と協力すること。生徒たちは意識しているか。協力する、対話することのよさを3人はどう捉えているか。会話ができて背景に何があるか分析的に考えたい。協力すること、対話することによって思考がどう変化しているか。「協力してできたね。」「話し合ったからいい結果につながったよね。」とフィードバックするとよい。話し合いの場面では、互いの意見を言いつつ、最終的に教師がまとめた。思考の流れはどうなっていたか。途中で二手に分かれるという意見は、既習事項とのつながりから出た。ルールに従ってできるということが、どういう学びにつながっているか、思考のプロセスはどうなっていたかを考えると、次の授業づくりに役立つ。

#### < 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について >

「主体的・対話的で深い学び」は、子どもがどういうふうに学んでいくのかを考えると授業改善につながっていく。育てたい3つの資質能力の育成につながることを押さえてほしい。深い学びがどういうことか。学校生活の中で、学んだことを生かすことのできる学びとは何か。汎化を大事にする、そういう視点も大事。学んだことをどう意識するか。子どもは意識するか。意識しなくても生かしていけるか。深い学びの視点について、「学びを生かす」という視点を今日改めて加えると、授業づくりが変わる。各教科の意識も。「各教科等の見方・考え方を生かしたり、働かせたりすること」「児童生徒が多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること」と指導要領にある。見方・考え方は、切り口として取り入れてみるのも、よりよい授業につながるのではないか。例えとして、算数科。身の回りにあるものの量の違いや長短に気付くことが挙げられている。

生活単元学習で、飾りを作る際、リボンの長さの違いなど、生活の中で気付いて、生徒の中に根付いて行動に移す。合わせた指導だからこそ見方・考え方を生かすことができる。合わせた指導のよさは、効果的に学習に取り入れられることである。そういった視点を取り入れるとよい。今日の授業で言うと、笹を見付けたときに、「違う」と言っていたのは、どういう意味だったのか想像する。どんな見方・考え方が働いていたのだろうか。見付けた笹がミッションカードのイラストと違うということか。成長具合だとしたら、それは理

科の視点である。絵のデザインだとしたら美術の視点である。どんな見方・考え方を働かせたのだろうかと考える。これまで植物を育ててきた経験があるなら、理科学的な視点が既習事項として身に付いている。

生活単元学習の授業をつくる時、教科等との関連を示しているが、教科等の見方・考え方を働かせる場面はどこだろうか。関連の教科を書いているので、どこで見方・考え方を働かせようかという視点を授業づくりに入れてほしい。

#### <授業者・研究からの質問に対して>

質問①：想像力豊かな生徒の良さをさらに伸ばし、より主体的、対話的な姿を引き出す発問の仕方について、先生のご経験からアドバイスをお願いします。

発問をあまり細かくしない。教師の言葉ではなく今回はボスのミッションで進めた。教師から投げかけすぎないで待つ。問いかける発問を。発言を受け、「それはなんでかな。」と問い返す。また、あえて反対意見を言ってみる。「え、なんでだろう。」と新たな考えが生まれ対話を引き出すことにもなる。主体的な学びについては、発問だけではない。ICT活用もある。自分から取り組みたくなる。相手に聞かないと、または調べないと進まないなどの課題もよい。今、取り組んでいることを大事にしてほしい。

質問②：生徒たちの興味や経験の広がりが将来の余暇へと広がってほしいという願いがあるため、少しずつ新しいクラブや内容を考えていきたい。実態や既習内容の違う生徒たちが主体的、対話的に生き生きと活動できるようなクラブ活動の事例やアドバイスをお願いします。

クラブは将来の余暇につながってほしい。クラブをどう考えるか。どんなことを学んでほしいか。教科との関連を踏まえる。クラブは、生徒が自分で選ぶ。選んだクラブによって違ってくる。クラブ以外の生活単元学習とカリキュラムマネジメントする。経験の広がりや余暇なら興味関心を中心にでよい。場合によっては教員側が得意なことでもよい。子どもたちから、もっと上手になりたいことなど対話の中で考えてもよい。興味の広がりや大事だが、今ある興味を深めるのも大事。今やっているものをもっと深める。1つのことを突き詰めていくこともよい。また、経験を広げて、選ぶ力にしていく。

質問③：日常的に持続可能な記録（授業改善→評価）方法について、青柳先生のご経験からご助言をお願いいたします。

記録用紙（研究から提案したもの）を見せてもらった。分かりやすく提案されている。時間のなかで大変なこと。大事なことをピンポイントで記録する。狙いを絞り、焦点化して記録する。書くことを絞ることで焦点化することになる。子どもを授業ごとにどう評価するか。評価につながるよう、精選して記録していく。

（質問への返答について）今、工夫していることは有効である。別の視点をとという意味でお話した。今までしてきたことを大事にしてほしい。

#### 6 研究授業を経ての成果と課題（○成果、●課題）

○探索クラブでは、生徒がより主体的に（自分で考えたり、自分から行動したりして）活動するために、探索クラブの（ワクワクするような）世界観づくりや、問いかけの

仕方を工夫することができた。

- 訪問教育の生徒との交流の仕方について、双方にとって必然性ある活動を考えていきたい。

7 中学部で特にがんばることの取組み「クラブ活動のあり方を捉え直す」について

- ・クラブ活動の意義や目標について、中学部全体で確認することができた。余暇につながることを一年間の大きな目標とし、教科等の関連をより意識しながら、年間の開設クラブや活動内容を考えることができた。
- ・生徒がやりたい活動を選べるように年間の開設クラブを提示し、「〇〇クラブは後期にはないけど、どうする？」と問いかけることで、生徒なりに考えて選択する取組みができた。

8 その他 授業研究会で話題になったこと どうしても伝えたいこと

- ・関連する教科に道德の価値項目を入れたことで、友達のことを思いやる生徒の様子（発言など）の変化を捉えることができた。Bくんの「ボス、ありがとう。」「ボス、よろこんでくれるかな。」など、訪問教育の交流生徒を思いやる言動が、それを見聞きした他の生徒にも広がっていった。
- ・目標を意識した学習の記録方法について。探索クラブでは、本単元の期間を通して、単元始まりの授業案検討日、中間の授業改善の話し合いで、生徒の目標を確認し合い記録した。記録したことで、生徒の様子の変化や支援の改善点が明確になった。
- ・目標に焦点をあてた記録の方法について、中学部全体で意識して取り組むことが課題である。

学校マップ



ボスへの報告動画



ミッションカード



栗の花を見つけた日  
(教室に戻ってから匂いを  
確かめているところ)

